

コロナ禍における信州大学アドミッションセンターの 対面型入試広報活動の分析

—WEB 進学相談会及びミニオープンキャンパス実施の成果—

一之瀬 博, 平井 佑樹 (信州大学)

2021 年度入学者選抜において各大学は、突如として発生した新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）により、従来の広報活動がほとんど行えない状況であった。そして新型コロナの感染拡大はとどまるところを知らず、2022 年度入学者選抜を迎えることとなった。コロナ禍の影響による行動制限期間は 3 年目に突入し、各大学はこれまでの知見を活かしつつ、オンラインを中心としたより効果的な入試広報を模索・展開している。本稿ではコロナ禍において信州大学が 2020 年度より取り組んだ入試広報活動における対面型イベント実施の効果について報告し、その参加者の本学への出願率が比較的高かったことなどを示す。

キーワード：入試広報、対面型広報、進学相談会、オープンキャンパス、オンライン

1 はじめに

18 歳人口の減少により、大学入学者選抜の志願者数も減少している。高大接続改革の一環として大学入学者選抜改革が実施され、2021 年 1 月には大学入試センター試験に変わる新たな試験として「大学入学共通テスト（以下、共通テスト）」が実施された。初の共通テストでは、多くの教育産業の予想に反して平均点が高くなった。一方、新型コロナは感染拡大の一途をたどり、2020 年 4 月には緊急事態宣言が発出され、高等学校が休校となるなど、高校生の学びは大きく転換した。学校行事が軒並み中止になる中で、高大接続改革の大きな目玉であった「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」について、それを入試で評価することを見送る大学もあった。さらに、新型コロナの影響で共通テストでは追試験を含めて 3 つの日程を設定し、例年の国公立大学への出願締切日以降に受験することも認めた。各大学においても、オンラインによる面接試験の実施や個別学力検査の中止、一般選抜に対する追試験の設定など、入学者選抜は混迷を極めた。

2021 年度においても、新型コロナの影響はとどまるところを知らず、拡大の一途をたどる中で、2022 年 1 月に実施された 2 年目の共通テストでは、平均点が大きく下がり、教育産業によれば文系（6 教科 7 科目）・理系（5 教科 7 科目）いずれも過去最低の平均点となった。これに関連して、高木（2013）は「2010 年度はセンター試験の平均点が大きく低下した年であり、受験生は安全志向を強めたと言われている」と述べている。

教育産業が共通テスト自己採点結果を考慮した上で提示する合格可能性の方が大きく影響すると考えられるものの、共通テストを課す大学においては、近年のような平均点の大きな変動があると、高校 2 年生や高校 3 年生の早い段階で魅力などを発信したとしても、それが出願には結びつかない可能性がある。2020 年度から続く新型コロナの影響もあり、このような様々な環境の変化は、確実に志願者の出願動向へ影響を与えていると考えられる。

また、18 歳人口の減少は大学関係者にとって大きな問題となる可能性が高い。2022 年度共通テストの志願者数は約 53 万人であった。現役志願率が上がったことで 2021 年度から約 5 千人程度の減少にとどまっているものの、2018 年度と比較すると、わずか数年間で 5 万人減少している。志願者の減少、そして新型コロナの影響が加わることによって多くの教育産業が受験の早期化、安全志向、地元志向などを予測しており、コロナ禍前とは大きく異なっている。このような予測も踏まえつつ、これまでの実績と経験によって培われてきた入試広報活動を検証し、新たな局面に対応した効果的な入試広報を展開していく必要がある。

新型コロナの影響によって始まったオンラインによる入試広報は、各大学の広報活動に新たな広がり可能性をもたらしたと考えられる。コロナ禍の初期は、「ネットワーク環境やスマートフォンの性能など物理的に実現しにくい状況であったとして、各大学も今一つ踏み出せなかったのが現実的なところではないか（雨森, 2021）」とあるように、従来の Web を利用

した入試広報と同様に、Web ページ上にコンテンツを掲載することで行われていた。しかし、現在はコロナ禍における Web を利用した入試広報やその効果に関する研究が多く報告され、通信環境が整ってきたこともあり、コロナ禍前と比較すると、様々な形式の入試広報が行われている。

一方、「入試広報として進学相談会は重要な役割を果たしていると考えられるが、実際にその効果を評価することは容易ではない(板倉ほか, 2020)」とあるように、入試広報については様々な先行研究があるものの、具体的に効果を示すことが難しいのが現状である。個人情報保護の観点から受験生一人ひとりを完全に追跡できないことが、その要因のひとつではないかと考えられる。しかしながら、コロナ禍においては、各イベントに参加する前に事前申込をすることが主流になり、各受験生の情報を収集しやすくなった。当然ながら、個人情報保護などの倫理面について考慮する必要はあるものの、コロナ禍前と比較すると受験生一人ひとりを追跡しやすくなったと言える。

本研究では、本学アドミッションセンター(AC)主催で、事前申込が必要な対面型イベントの参加者を追跡し、本イベントへの参加が本学への出願に結び付いたかどうかを検証した。ここで、対面型とは「オンライン・オフライン問わず参加者と直接対話ができる環境がある」ことを指す。対面型入試広報の重要性に関しては、松村ほか(2008)、森川ほか(2021)、一之瀬ほか(2022)などが報告している。

2 追跡対象

本研究での追跡対象は、2020 年度より行われた「Web 進学相談会(以下、Web 相談会)」及び「ミニオープンキャンパス in 松本(以下、ミニ OC)」の参加者である。本節では、これらのイベントを簡単に説明する。実施方法などの詳細については、一之瀬ほか(2022)を参照頂きたい。

2.1 Web 相談会

2020 年度より平日で週 3 日程度の実施日を設定し、AC 教員 2 名体制で通年実施している。共通テスト終了後 2 週間程度は土曜・日曜日にも開催しており、1 人あたり 20~30 分の相談時間を設けている。参加希望者は本学 Web ページとリンクしている専用システムで希望する相談時間帯を選択することができ、複数回参加することや、保護者などが同席することも認めている。相談内容については入試に限らず、大学での授業内容、研究内容、大学周辺情報、学生寮、部活・サ

ークル活動など、幅広く受け入れている。

Web 相談会では、前述の参加方法とは別に、高校単位で参加を申し込むことができる。この場合は高校教員が仲介役となり、相談時間や方法などを調整した上で実施する。この相談会は高校教員が仲介していることから、本研究では、前述の専用システムから申し込む方法(以下、公開)と、高校単位で申し込む方法(以下、学校一括)に分けて分析を行った。

Web 相談会は、業者主催の対面型イベントの中止や新型コロナによる行動制限を受けて開催したものである。北海道・東北地方や九州・沖縄地方からの相談申込もあったことから、新型コロナによる行動制限がある程度緩和された現在でも、継続して実施している。

2.2 ミニ OC

本学は、8 つの学部が長野県内に点在する、いわゆるタコ足大学である。そのため本部がある松本キャンパスで実施するアドミッションセンター主催の「信州大学 OC in 松本(全学部合同プログラム)」と、各学部主催 OC の 2 本立てで実施している。このうち、信州大学 OC in 松本では、毎年 3,000 名程度が来場していた。

コロナ禍では、3,000 名程度を 1 回の OC で受け入れることは難しかったため、規模を縮小したミニ OC を複数回実施することで対応した。ミニ OC では、参加者を事前に把握し、参加人数を制限するなどの新型コロナ対策に十分配慮した上で、7 月中旬から 10 月中旬までの休日を中心に、2020 年度は 20 回、2021 年度は 16 回(この 16 回のうち 4 回はオンライン)開催した。

ミニ OC は、大学に実際に来て見学してもらうことを最優先事項として開催したものである。信州大学 OC in 松本と比べると、物足りなさを感じる部分もあったと考えられるが、一之瀬ほか(2022)で報告したように、参加者の満足度が高いイベントとなった。

表 1 追跡対象者数

参加年度	入試年度	学年	Web 相談会		ミニ OC
			公開	学校一括	
2021	2022	高 3 既卒	104	134	560
2020	2021	高 3 既卒	311	182	472
	2022	高 2	29	0	422

2.3 追跡対象者

表 1 は本研究における追跡対象者を示したものである。ここで、「参加年度」はその対象者が各イベントに参加した年度、「入試年度」は本学で受験した入試の年度、「学年」は参加当時のものを指す。このような分割方法により、たとえば、2020 年度に参加した高校 2 年生が本学 2022 年度入試を受験したかどうかを見る。高校 3 年生・既卒生の参加者について比較すると、2021 年度 Web 相談会（公開）は 104 人（前年比 207 人減）、Web 相談会（学校一括）は 134 人（48 人減）、ミニ OC は 560 人（88 人増）であり、Web 相談会の参加者が減ってミニ OC の参加者が増えたことが分かる。

2020 年度は高大接続改革における新しい入試を実施する年度であったことに加え、緊急事態宣言によって高校が休校となり、高校教員との進路相談が十分にできないなどの状況が発生した。そのため、未曾有の事態に対して受験生の不安が大きくなり、Web 相談会の参加者が多くなったと考えられる。一方、2021

年度は分散登校などの様々な対応を行うことによって、高校教員などへの相談が比較的簡単にできるようになり、Web 相談会の参加者が減ったものと考えられる。また、2021 年度は、ある程度行動制限が緩和された中でミニ OC を実施できたこともあって、Web 相談会ではなく、大学キャンパス内で相談できるミニ OC への参加を決めた者もいると考えられる。ここでは、全体の参加者数には触れないものの、参加者総数においてもミニ OC は前年度を上回った。

3 対面型イベント参加者の本学への出願状況

3.1 本学への出願率

表 2 は、表 1 で示した追跡対象者について、入試区分ごとに出願者数と出願率を示したものである。ここで「学校推薦 I」は共通テストを課さない学校推薦型選抜、「学校推薦 II」は共通テスト課す選抜であり、以降の説明でも同様である。また、参加イベントの「全体」は、Web 相談会あるいはミニ OC のいずれかに参加した者であり、最右列の「本学への出願

表 2 Web 相談会およびミニ OC 参加者の入試区分別出願状況

参加年度	入試年度	参加イベント	参加者数	一般前期出願者	一般後期出願者	学校推薦 I 出願者	学校推薦 II 出願者	本学への出願者
2021	2022	Web 相談会（公開）	104	32 (30.8%)	19 (18.3%)	30 (28.8%)	11 (10.6%)	70 (67.3%)
		Web 相談会（学校一括）	134	35 (26.1%)	22 (16.4%)	27 (20.1%)	21 (15.7%)	69 (51.5%)
		ミニ OC	560	137 (24.5%)	61 (10.9%)	67 (12.0%)	52 (9.3%)	232 (41.4%)
		全体	749	190 (25.4%)	92 (12.3%)	109 (14.6%)	69 (9.2%)	334 (44.6%)
2020	2021	Web 相談会（公開）	311	100 (32.2%)	41 (13.2%)	62 (19.9%)	35 (11.3%)	182 (58.5%)
		Web 相談会（学校一括）	182	56 (30.8%)	32 (17.6%)	29 (15.9%)	28 (15.4%)	100 (54.9%)
		ミニ OC	472	34 (7.2%)	17 (3.6%)	28 (5.9%)	15 (3.2%)	69 (14.6%)
		全体	915	182 (19.9%)	87 (9.5%)	111 (12.1%)	71 (7.8%)	317 (34.6%)
	2022	Web 相談会（公開）	29	6 (20.7%)	3 (10.3%)	4 (13.8%)	2 (6.9%)	10 (34.5%)
		ミニ OC	422	30 (7.1%)	13 (3.1%)	5 (1.2%)	11 (2.6%)	44 (10.4%)

注) Web 相談会（学校一括）において、2020 年度参加者かつ 2022 年度入試受験者はいない（表 1 参照）。
参加イベントの「全体」は、Web 相談会あるいはミニ OC のいずれかに参加した者である。
最右列の「本学への出願者」は、本学のいずれかの入試（総合型選抜なども含む）で出願した者である。

者」は、本学のいずれかの入試（総合型選抜なども含む）で出願した者を示している。表 2 で示した 4 つの入試区分以外の出願状況については、募集定員が少ないため省略しており、以降の説明でも同様である。

本学への出願者を見ると、高校 3 年生・既卒生の参加者について、2021 年度 Web 相談会（公開）参加者の出願率は 67.3%（前年 58.5%）、Web 相談会（学校一括）は 51.5%（前年 54.9%）、ミニ OC は 41.4%（前年 14.6%）であった。

一方、高校 2 年生の参加者について、Web 相談会（公開）参加者の出願率は 34.5%、ミニ OC は 10.4%であった。いずれも、高校 3 年生・既卒生参加者の出願率と比較すると低調であったが、2 年生までは大学について広く検討する傾向にあると考えられるため、3 年・既卒生とは異なる参加者層が中心だったことも考えられる。

3.2 出願者全体に占める割合

表 3 は入試区分別の総出願者数に対して Web 相談会及びミニ OC 参加者の占める割合を示したものである。ここで、2022 年度入試については、2020 年度と 2021 年度の参加者を合わせた結果を示しており、

両年度ともに参加した者は 1 名として集計している。また、区分の「イベント参加」は Web 相談会あるいはミニ OC のいずれかに参加した者を示している。

イベント参加を見ると、2022 年度入試においては一般前期出願者のうち Web 相談会あるいはミニ OC に参加した者の割合は全体の 7.1%、一般後期が 3.8%、学校推薦 I が 23.5%、学校推薦 II が 24.9%であり、一般選抜に比べて学校推薦型選抜出願者の参加率が高かった。この傾向は 2021 年度入試においても同様であった。

Web 相談会やミニ OC に参加した理由は明らかになっていないため、あくまでも推測ではあるが、総合型選抜や学校推薦型選抜での出願を考えている Web 相談会参加者からは、出願書類や面接・実技試験に関する質問が多かったように感じている。出願書類（特に、志望理由書）に書くべき内容、面接・実技試験の具体的な内容、面接・実技試験の雰囲気などは入学者選抜要項や学生募集要項を読んだだけでは分からないこともあるため、それらに関する情報を求めて、出願予定者の多くが対面型イベントに参加したのではないかと考えている。

表 3 出願者全体に占める Web 相談会およびミニ OC 参加者の割合

参加年度	入試年度	区分	一般前期 出願者	一般後期 出願者	学校推薦 I 出願者	学校推薦 II 出願者
2020 ～ 2021	2022	Web 相談会 (公開) 参加	38 (1.2%)	22 (0.8%)	33 (6.8%)	13 (4.2%)
		Web 相談会 (学校一括) 参加	35 (1.1%)	22 (0.8%)	27 (5.6%)	21 (6.7%)
		ミニ OC 参加	164 (5.3%)	73 (2.7%)	71 (14.6%)	60 (19.2%)
		イベント参加	220 (7.1%)	106 (3.8%)	114 (23.5%)	78 (24.9%)
		総出願者数	3,085	2,754	486	313
2020	2021	Web 相談会 (公開) 参加	100 (2.9%)	41 (1.4%)	62 (12.6%)	35 (11.8%)
		Web 相談会 (学校一括) 参加	56 (1.6%)	32 (1.1%)	29 (5.9%)	28 (9.5%)
		ミニ OC 参加	34 (1.0%)	17 (0.6%)	28 (5.7%)	15 (5.1%)
		イベント参加	182 (5.3%)	87 (3.1%)	111 (22.6%)	71 (24.0%)
		総出願者数	3,425	2,830	492	296

注) 「イベント参加」は Web 相談会あるいはミニ OC のいずれかに参加した者である。

表 4 Web 相談会およびミニ OC 参加者の合格率

参加年度	入試年度	区分	一般前期 合格者	一般後期 合格者	学校推薦 I 合格者	学校推薦 II 合格者
2020 ～ 2021	2022	Web 相談会 (公開) 参加	18 (52.9%)	3 (23.1%)	17 (51.5%)	4 (30.8%)
		Web 相談会 (学校一括) 参加	14 (50.0%)	0 (0.0%)	15 (55.6%)	10 (47.6%)
		ミニ OC 参加	72 (50.3%)	5 (22.7%)	30 (42.3%)	26 (43.3%)
		イベント参加	105 (54.1%)	8 (20.5%)	62 (54.4%)	40 (51.3%)
		未参加	1,279 (48.9%)	462 (46.5%)	156 (41.9%)	87 (37.2%)
2020	2021	Web 相談会 (公開) 参加	47 (52.2%)	6 (33.3%)	35 (56.5%)	21 (60.0%)
		Web 相談会 (学校一括) 参加	27 (51.9%)	6 (37.5%)	15 (51.7%)	11 (39.3%)
		ミニ OC 参加	14 (42.4%)	2 (16.7%)	11 (39.3%)	4 (26.7%)
		イベント参加	88 (52.4%)	14 (31.8%)	61 (55.0%)	36 (50.7%)
		未参加	1,317 (42.8%)	544 (46.3%)	152 (40.0%)	84 (37.5%)

注) 合格率は当該入試区分の受験者に対する合格者の割合である (2022 年度入試は 3 月 20 日時点)。
「イベント参加」は Web 相談会あるいはミニ OC のいずれかに参加した者である。

3.3 対面型イベント参加者の合格率

表 4 に対面型イベント参加者の合格率を示す。合格率は当該入試区分の受験者に対する合格者の割合であり、2022 年度入試については、一般選抜後期日程の合格発表を行った、2022 年 3 月 20 日時点での合格者を集計している。

Web 相談会やミニ OC 参加者の合格者数を見ると、未参加者数と比べて少ない。しかし、合格率を見ると、学校推薦型選抜や一般選抜前期日程で、未参加者と比較して割合が高くなっており、対面型イベントの効果が少なからずあることが伺える。

4 まとめ

本稿ではコロナ禍における対面型入試広報の効果について報告した。先述のとおり、対面型広報の効果を測ることは難しいとされてきた。今回の分析により効果が明確になったということではないが、コロナ禍という特殊な状況において詳細なデータが得られたことにより、より具体的な結果を示すことができた。表 2 で示したように、2022 年度入試において参加者の出

願率はいずれの選抜についても、前年度より高い割合になっており、特に 2022 年度入試の一般選抜前期日程においては Web 相談会 (公開) が 30.8%、Web 相談会 (学校一括) が 26.1%、ミニ OC が 24.5%と、いずれも参加者の約 4 人に 1 人が出願していることが明らかになった。

表 3 で示したように、総出願者数と比較すると対面型イベント参加者は少ないかもしれない。しかしながら、表 4 で示したように、本学入試での合格率は比較的高いことが明らかになった。「対面型イベントに参加したから合格できるようになった」「もともとポテンシャルの高い受験生が対面型イベントに参加していた」のどちらなのかは明らかになっていないものの、表 2 や表 4 の結果を見る限り、対面型イベントの開催に一定の効果があったと考えることができる。

本研究での結果を受け、本学 AC では対面型イベントを引き続き重要な入試広報活動と位置づけ、継続して実施している。出願者数を確保するのか、学力の質を担保するのかなどの目標によって、今後の方策が異なってくるが、本学 AC では 1 節で述べた 18 歳人口

の減少が現実的な問題となっていることを鑑みて、まずは、出願者数の確保を目標として広報活動を行っている。

対面型イベント参加者の出願率が比較的高いことが本研究で明らかになったため、現状では、ミニ OC などの受入可能人数が決まっていたイベントの実施回数をさらに増やす方向で検討している。また、高校 1 年生や 2 年生の参加者を出願に結び付けるようなターゲットを絞った対面型イベントを実施することも検討している。さらに、進路指導部へのアプローチの重要性（永野・門馬, 2014）や、「訪問校のニーズに沿った案内でなければ効果は高まらない」という指摘（永野・門馬, 2012）を考慮して、高校訪問や高校での大学説明会をセットにした Web 相談会（学校一括）の開催についても検討する予定である。

今後の課題は、対面型イベント参加者に対する入学後の追跡調査である。具体的には、未参加者と学業成績を比較するなどを行い、対面型イベントの効果について、さらに知見を増やしていきたい。一方、本稿では、1 節で述べた共通テスト平均点の上下が出願動向に影響を与えるか否かについては検証していないため、高校教員にインタビューを行うなどによって今後明らかにしていきたいと考えている。

参考文献

- 雨森 聡 (2021). 「コロナ禍で変わる入試広報—静岡大学全学入試センターの実践報告—」『令和3年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第16回）研究発表予稿集（オープンセッション用）』, 41–46.
- 一之瀬博・木村 建・海尻賢二・平井佑樹 (2022). 「コロナ禍における信州大学アドミッションセンターの入試広報活動」『大学入試研究ジャーナル』 **32**, 150–156.
- 板倉孝信・吉田章人・並川 努・坂本 信 (2020). 「進学相談会の対応記録に関する傾向分析—志願者確保の改善に資する一試論—」『大学入試研究ジャーナル』 **30**, 221–227.
- 森川 修・山田貴光・小山勝樹・小倉健一・古塚秀夫 (2021). 「会場形式進学相談会が入試動向に及ぼす影響—鳥取大学の事例—」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 345–350.
- 村松 毅・寺下 榮・田中 勝 (2008). 「「対面型」入試広報の効果測定に関する調査〈総括〉」『大学入試研究ジャーナル』 **18**, 1–6.
- 永野拓矢・門馬甲児 (2012). 「国公立大学教職員による広報活動に関する研究—高校は何を求めているのか—」『平成24年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会（第7回）研究発表予稿集』, 109–114.
- 永野拓矢・門馬甲児 (2014). 「大学広報担当からみた高校進路

- 指導部の現状と課題」『大学入試ジャーナル』 **24**, 213–218.
- 高木 繁 (2013). 「センターリサーチと個別試験受験者の成績分布から見た輪切りの実態」『大学入試ジャーナル』 **23**, 51–56.